

平成29年6月20日

農作物生育・技術情報3号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稲生育状況（6月15日現在）

品 種	生 育 状 況		
	項 目	29年	平 年
ななつぼし	草丈 (cm)	27.5	27.9
	葉数 (葉)	6.0	6.2
	莖数 (本/m ²)	119.0	132.9
	分けつ始 遅速日数	6月12日 -2	6月10日 -

6月上旬の低温により莖数はやや少ないものの生育は平年並みです。風が冷たいと感じても日射しが強い場合は、水温は気温を上回っています。水の保温効果を利用して初期生育を促進させましょう。

技 術 対 策

- ・ 莖数を確保するため、好天時は3cm～4cmの浅水管理を行い、株もとの地温を高め分けつを促す。ただし、田面は露出させないようにし、低温や強風時は水位を上げて苗を保護する。入水は気温と水温の差が少ない夜間から早朝に行い、日中は止水にして水温の上昇を図る。
- ・ ワキがひどい水田は、好天時に水田の中干し(3～4日)を行う。ただし、生育が悪い場合は水の入れ替えにとどめる。

2 主要野菜の生育状況

作 物 名	生 育 状 況	技 術 対 策
トマト	4月定植 ・ 第1～2花房収穫中で第6～7花房が開花。 ・ 5段花房付近で葉先枯れ症状が見られる。 ・ 低温、曇雨天のため灰色かび病が発生している。 ・ アザミウマ類の発生が見られる。 5月定植 ・ 第3～4花房開花中。	・ 莖葉の過繁茂は、灰色かび病、葉かび病などを誘発するので、ベットの内側の葉を中心に摘葉し、適宜薬剤散布を行う。 ・ 草勢が衰えないように、必要に応じて追肥・かん水・葉面散布等を行う。
ハウス軟白ねぎ	・ 1月定植収穫中。 ・ ハモグリバエ類、タマネギバエ、アザミウマ類、葉先枯れが見られる。	・ ハウス周辺の除草、残渣の処理を徹底する。 ・ 粘着版を設置し早期防除に努める。
アスパラガス (ハウス立茎)	・ 立茎移行期～夏芽収穫中。 ・ 灰色かび病、ジュウソウバエ、アザミウマ類の発生が見られる。	・ 樹を軽くゆすり、老化花弁を落とす。またハウス内湿度を高めないように換気に努める。 ・ ハウス周辺の除草を行う。

* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

3 牧草生育状況（6月15日現在）

作物名	生育状況				生育期節	適要
	項目	29年	平年	遅速日数	出穂始(平年値)	
牧草	草丈	89.2cm	89.3cm	±0	6/15(6/13)	生育は平年並み
デントコーン	草丈	19.7cm	25.0cm	-2		低温日照不足のため、生育は緩慢である
	葉数	3.9葉	4.4葉	-2		

※多くのほ場でチモシーが出穂し、刈り取り適期となっています。

※牧草栄養価を重視し、刈り取り時期が遅れないように注意してください。

※牧草収穫後は追肥しましょう。追肥により、分けつが確保され来年につながります。

※飼料用とうもろこし圃場では雑草が伸びてきています。早めの除草剤処理を行いましょう。

4 畑作

(1) ばれいしょ

○培土 本培土は萌芽後21～25日後、莖長25cm頃を目安に行います。遅れると根やストロンを切断するので早めに行いましょう。

○疫病 疫病は着蕾期以降から発生が見られ、降雨による多湿で蔓延しやすくなります。予防に努めましょう。

疫病防除： 6月下旬 グリーンペンコゼブ水和剤（400～600倍）

(2) てん菜

○根腐病 高温多湿で多発します。予防防除に努めてください。

○ヨトウガ ほ場をよく観察して、虫や食痕を確認してから薬剤を散布しましょう。

*詳しくは「てん菜栽培技術情報」をご覧ください。

(3) 秋まき小麦

○赤かび病 1回目防除の7～10日後に、ベフトップジンフロアブルで防除しましょう。

○アブラムシ類

出穂10日後に1穂当たり7～11頭位寄生している場合は、防除が必要です。ほ場をよく観察しましょう。

(4) 大豆、小豆

定期的の中耕作業を行い初期生育の促進に努めましょう。

中耕作業は花芽分化前の7月上旬までに終了します。

5 6～8月は「農薬危害防止月間」です！

◎病虫害・雑草の防除に使用する薬剤は、農林水産省登録の薬剤に限ります。

容器に「農林水産省登録〇〇号」の記載があるので、必ず確認しましょう。

◎使い慣れた農薬であっても必ず「防除ガイド」を確認しましょう。

- ・適用作物
- ・使用時期（収穫前日数）
- ・希釈倍数、量
- ・成分ごとの使用回数
- ・使用期限

◎農薬の飛散防止に努めましょう。

